

はじめに

10月はイベント事が多く走り抜けた一か月でした。国慶節の4連休、中間テスト、卒論の中間発表、インターン、ハロウィンなどなど。前半の記憶がなくなるほど楽しいことも大変なこともあり充実した一か月でした。ようやく休息の取り方を覚えたので、こんなにバタバタでしたが熱を出すことなく健康に過ごせました。これも一つの成長ですね！自分を褒めてあげたいです。しかし、中国語力が伸び悩み、卒論が全然進んでないなどこれからもっと頑張らないといけないことが多くあるので、そこは活を入れたいと思います。



もう大量のカイロが売られている。まだ昼間は半袖で過ごせるのに、この国でカイロが必要になるときは来るのか

台湾生活

○授業「飲食文化」

私が履修している授業の一つを紹介します。

「飲食文化」は中国大陸や台湾の食文化を学びます。お祝いのお日かき物や中国の伝統的な料理の由来などを学びます。更に、毎回3、4人の学生が自分の国の食文化について発表します。受講生のほとんどが留学生のため中国の食文化だけでなく、世界各国の食文化を知ることができます。毎回興味深い内容で楽しい授業です。更に、中間テストとしてグループでプレゼンがありました。一人10分間話さなくてはならず緊張しました。私たちのグループは「台湾の飲料店」について発表しました。なかなかうまく話せませんでした。先生にいい発表だったと褒めていただけ嬉しかったです。

中国語を学ぶ授業ではないため、それほどプレッシャーなく受けられますが、夕食前の授業なので空腹に注意が必要です。



・中国語<韓国語？

現地の台湾人より留学生と関わる機会が多いため、外国人の友達が多くできます。私の場合は韓国人の友達が多く、韓国語の語彙が増えました。韓国好きの私にとって韓国留学しているみたいで楽しいのですが、やはり中国語を話さなきゃと思う毎日です。驚くことに韓国人の友達は日本語を話せる人が多いので、日本語と韓国語と中国語の三か国語をごちゃまぜに話しています。韓国人と関わるうちに、日本人との違いも感じるようになりました。とにかく気が強い！察でうるさくしてしまい注意を受けた際、日本人はシュンとなるのに、韓国人の友達は文句をずっと言っていました笑。さらにせっかち文化！私もせっかちな性格だと思っていたのですが、韓国人の友達はさらにせっかちです。いつも「早くして」と言われています。台湾の文化以外にも様々な国の文化を知ることができるのが留学のいいところだと思います。



○李邸宅

新店市の、台北市内から少し離れた蘆洲李氏住宅に行きました。この建物は1857年に福建省から台湾に渡ってきた李一族の二代目の李清水によって創建されました。李氏住宅は中国大陸の建築で、台北市内には歴史的建造物といえば日本統治時代の建築が多いため新鮮に感じました。また、住宅全体で9つの広間、60部屋とかなり大規模な住宅です。

李氏の5代目李友邦は日本統治時代に人々を抗日に導いた人物で、邸宅内の展示品も抗日関係のものが多くありました。ここに行く前は日本人が来たら嫌な顔をされるかなと思っていましたが、係員はフレンドリーに対応してくれました。また、日本語のパンフレットもあったので日本人にも知ってもらいたいという思いもあるのではないかと思います。台湾の親日的な部分を目にすることが多いため、台湾人は皆日本のことが好きだと考えがちですが、日本統治時代や抗日の歴史があることを忘れてはいけないと思いました。

たまたま通りかかったガイドの方に出会うことができ、展示品や建物の造りについて解説していただきました。もちろん全て中国語の解説で理解できない部分が多かったのですが、ただ見ただけで通り過ぎていたところを解説していただけたので、大変勉強になりました。閉館間際に行ったため時間がなかったので、ガイドの方に「また時間があるときに解説するよ」と言っていただけたことが嬉しかったです。



←段差や側溝を造って
水はけをよくしている



○映画鑑賞

台湾でもついに「君たちはどう生きるか」が公開されました。台湾でもジブリは人気が高く、多くの人が公開を期待していました。台湾人の友人たちも早速見に行っていましたが、内容が難しく字幕だと理解しにくいと言っていました。

台湾の映画館は日本と同じようにシネコンでショッピングモールの中にあることが多いです。さらに最近は大型のショッピングモールが次々にできていくという印象があります。逆に次々にデパートが閉店している日本とは異なり、経済に活気があるように感じます。現在の日本では感じる事ができない経済の盛り上がりを感じることができるのも台湾にいて楽しいことの一つです。

鑑賞スタイルは日本の映画館とさほど変わりません。しかし、買ったドリンクや食べ物を持ち込んでいいため、バリバリ聞こえてきます。日本の映画館の方が静かだと感じました。



卒論 NOTE

台湾は女性の地位が高い「ジェンダー・フレンドリー」な国であり、そして近年半導体をはじめとした工業発展も進んでいるため、台湾のフェムテック分野も新たな展開をみせているのではないかと考え、台湾のフェムテックについて研究する事にしました。

<フェムテックとは？>

女性 (female) + 技術 (technology)

二つの言葉をかけ合わせた造語

女性の健康に関する課題をテクノロジーで解決するサービスやプロダクトの総称

<フェムテックが生まれた背景>

医療分野は男性中心主義

もともと医療従事者や研究者は男性が多く、女性の身体が無意識に除外されていた



女性の身体の事は女性自身で決めよう！

フェムテックの誕生

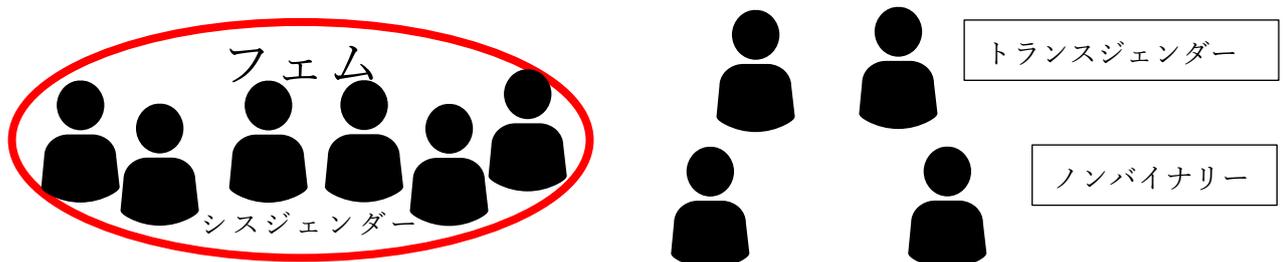
<フェムテックの問題点>

フェムテックが提唱する「女性の健康」とはシスジェンダーの女性（女性として生まれてきて自分自身の性を女性だと認識している女性）の健康のみを指している

トランスジェンダーやノンバイナリーなどのマイノリティを排除しているのではないか？



第3波、第4波の女性間の格差をなくしていこうとしてきたフェミニズムの流れに逆行している



<台湾のフェムテックは？>

西洋で批判されたフェムテック

「ジェンダー・フレンドリー」と言われる台湾ではどのようなフェムテックが誕生しているのか？

<参考文献>

- ・西條玲奈,2023,「その「フェムテック」は誰向けの製品なのか」『現代思想』51 (6) .
- ・山田秀頌,2023 「「フェム」テックとトランスジェンダーの身体の接点 その可能性と限界について」『現代思想』51 (6) .